

◆ 平成27年度事業実施

ブルーベリーフレンドファーム（認定農業者） （常陸大宮市）

取組概要

ブルーベリー加工品の試作・商品化を契機とした 交流人口拡大への取組

◆ 取組区分 販路拡大・輸出 アグリビジネス 農山漁村活性化

事業実施前

定年後、特徴ある農業を行っていかうという思いから、平成19年からブルーベリーを定植し、平成27年にブルーベリー園をオープンしました。

前年のプレオープンの課題として、直売等では、品温を下げておかないと品質が劣化してしまう問題がありました。また、地域の交流人口を増やしたいという思いから、シーズン外にも提供できる、ブルーベリー加工品の商品開発が必要となっていました。



ブルーベリーほ場

取組の内容

こだわり完熟ブルーベリーの販売のために、品質を保持するための冷蔵庫を導入しました。また、ブルーベリーを冷凍保存するために、冷凍庫を導入しました。

ブルーベリーを活用した加工品の試作・商品化に取組み、カフェのオープンにより、通年で加工品を提供できるようにしました。



カフェのオープン



冷蔵庫、冷凍庫の導入

事業費補助を活用した経費

- ・ 冷蔵庫の導入
- ・ 冷凍庫の導入

取組の成果

冷蔵庫、冷凍庫の導入により、高品質な完熟ブルーベリーの販売、及びブルーベリーを活用したパスタソース、タルトの新規加工品が商品化され、カフェで提供することができました。

平成28年度からは、道の駅常陸大宮かわプラザでのブルーベリー、タルトの販売を開始することができています。

初年度は、体調不良により予定していた取組ができませんでしたが、2年目は前年比5倍の売上となっています。

観光農園、カフェのお客に加え、地元高校と連携した高校生農園づくりの取組やカフェでの各種活動により交流人口を増やすことができました。



冷製ブルーベリーパスタ

ブルーベリータルト

今後について

平成28年度は1,000名のお客様が来園したので、引き続き交流人口を増やせるよう取り組みたいと思います。また、贈答品の受取先から新たなリピーター確保につながったので、贈答品販売に力を入れていきたいと思っています。

今後は、地元高校と連携した高校生の6次産業化の支援や、大学と連携したブルーベリーのお茶の開発をしていきたいと思っています。

農業と観光を合わせたビジネスモデルづくりとして、この地域を奥久慈ブルーベリーの郷にすることを目指して取り組んでいきたいと思っています。



地元高校生と連携した農園づくり



カフェでの会食の様子